

高 福 墓 誌

開元十二年(724)
(唐時代)

歴代墓誌銘にみる 書法の変遷⑩

木
鶴
室

木
雞
室

伊
藤
滋

図版②

高福墓誌



興福寺断碑



高福墓誌



興福寺断碑



図版③

原刻拓本



翻刻拓本



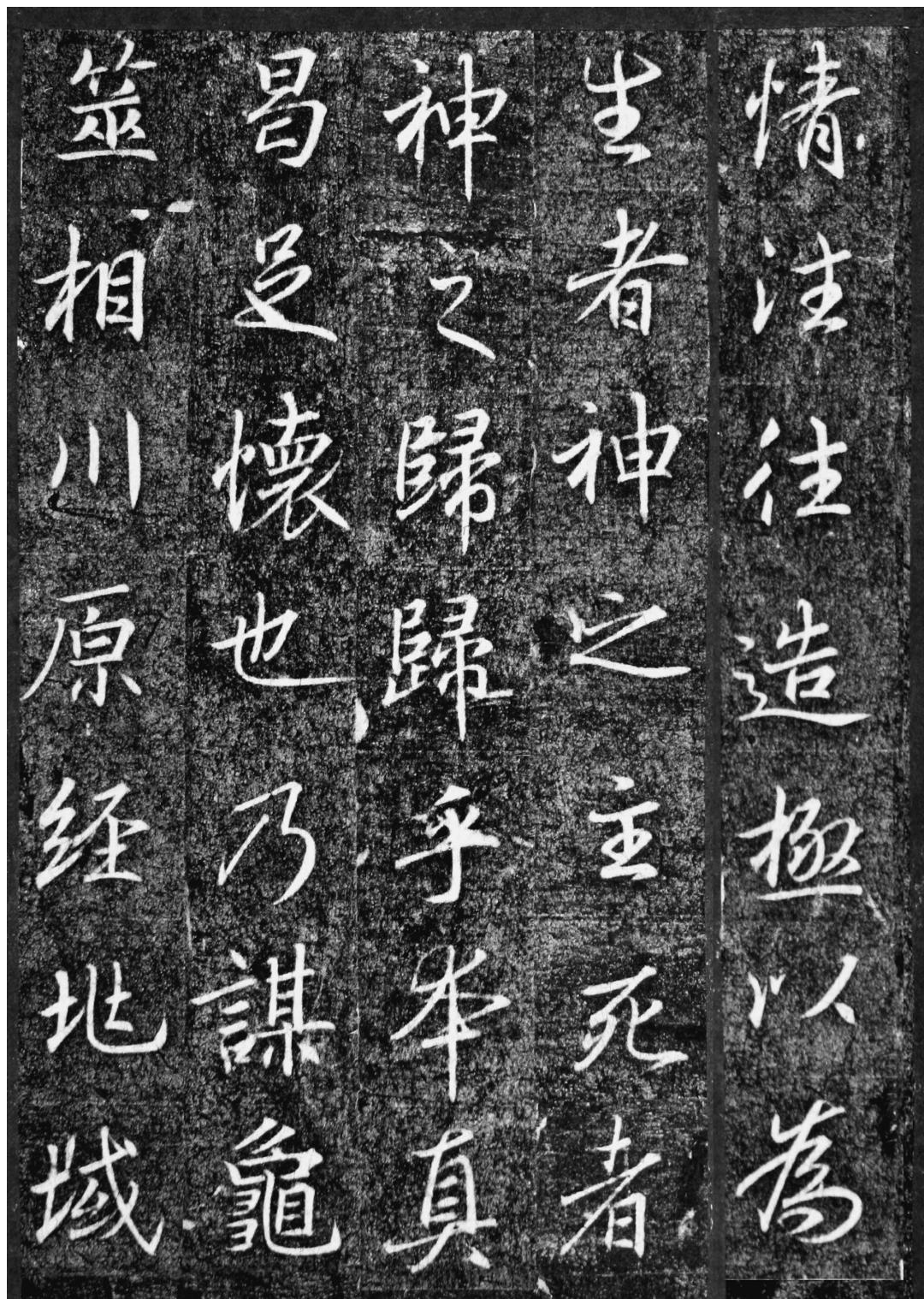
「高延福墓誌」ともいう。十八世紀末に出土し、清末まで伝えられたと記録にあるが、伝来する拓本は、翻刻本が多い。唐時代の石刻資料は、多くのものが伝えられているが、とりわけ墓誌銘は数も多い。しかし書方面から見ると特色あるものは少ない。「高福墓誌」のように書として優れたものはそれほど多くはない。初めてこの墓誌を目にしたときは、王羲之の書を集字したのではないかと思った。それほどに王羲之の書に似ている。まさに王羲之を忠実に習った人が書いたものであろう。ほぼ同時代の、王書を集字した「興福寺断碑」(721年)と同じ文字を抜き出して比較した(図②)。字形・用筆などに相通じるものがある。行書の優れた手本に値するであろう。戦前は、日本部鳴鶴らが中心となり日本、中国の名跡を紹介した『談書会誌』に収録されているが、翻刻拓本である(図③)。昭和二年、西東書房から中村不折蔵の原刻拓本が刊行された。

今回で十回にわたった歴代墓誌銘にみる書法の変遷は終わります。

次回からは、雄大な摩崖刻石の書を紹介します。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス mokkei@galaxy.ocn.ne.jp



書道芸術院 平成の群像 (2011)



「伸
伸」

過去から今に、そして未来へと続いく書の歴史、永々と続く有給の世界にあって「きらり」と輝く書を制作したい。書を通して古より受け継がれたものと今を生きる自分の調和を表現したい。一方で書が果たす役割とはなんであろうか、そんな問いかけもしながら書き続けてきました。

たものと今を生きる自分の調和を表現したい。一方で書が果たす役割とはなんであろうか、そんな問い合わせしながら書き続けてきました。

のびのびしたさま」を表すことばです。閉塞感ただよう社会にあって萎縮することなく、伸び伸びと書の理想を構築していくこう、常に書藝の原点に立ち戻り考究し続けていこう。そんな方向性を持ちもって今後も歩んで行きたいとの思いを持って選んだことばでした。力強く躍動感に満ちた明るい雰囲気を表現したく、墨色・線質にこだわり構成

書展終了後一月も経たぬ間に未曾有の震災が起り、人間の有様を多方面において問われることになりました。

「伸伸」をこの災害の後に書いたとしたら同じ表現をしただろうか、同じことばでありながら、異なった表現をしたであろうと思いました。

「書はことば（文字）を書くことを表現の場としてなされている。」

これは森田子龍のことばですが、書表現の場は常に制約を伴いつつも、人間の顔が単位的には同じ構造であります。がらそれぞれに違うように、ことば（文字）の表現もまた、その時代、社会、書き手の心情によって表現は異なります。書は書き手の心象表現の場でありそして書には命があり生きている、と思うのです。

「作品は生まれるもの」この言葉を中心とどめて、自己を掘り下げてゆくとともに、また掘り下げたものが、自然と発露してくる、この発露したものを表す技巧、技術というものを練磨しながら、書作を続けていこうと思いま

「書制作寸考」



稻垣小燕

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第64回書道芸術院東日本展中止による展示作品について

既に皆様ご承知のことと思いますが、今回の東日本展中止に伴い、展示予定の作品の処置についての連絡が不十分でご迷惑をおかけいたしました。

各表具店より出品団体責任者にご連絡をお願いいたしましたが、徹底されなかつたよう、一部の方々から作品に関するお問い合わせがありました。

気仙沼の恵比寿屋表具店さんと石巻の有元堂さんは地震と津波の影響で院関係者の作品約800点が流失、致命的な被害を受けられました。その他の展示予定作品はまだ搬入前で無事でした。現在各表具店から皆様のお手元に返却されつつあります。

被災された皆様と表具店関係者に心からのお見舞いを申し上げ、遅ればせながらご報告といたします。

なお、被災された方々へのお見舞金は、6月10日、全て現金書留にて発送いたしました。毎日書道会への300万円、会員へ総額150万円弱となり、残金は追加申請などに対応する予定です。現在受領された方から被災状況と共にお礼のお言葉もいただき、身につまされない

がら感謝しております。

第67回毎日書道会理事会報告 下谷洋子氏毎日書道顕彰受賞

去る6月9日、財団法人毎日書道会評議員会に続き理事会が開催され、平成22年度事業報告、収支決算報告のほか評議員選任、理事役員補充など各種案件が決定した。

* 理事補欠選任、理事長互選（敬称略）
新理事長 毎日新聞社社長朝比奈豊
新理事 田村空谷

名譽顧問

北村正任

常任顧問 大楽華雪
* 新総務
新参事 玉村舞山・藤澤麦草・後藤
竹清・中原志軒・永守蒼穹

* 新評議員
千葉蒼玄・堀吉光・慶徳紀子・柳澤
朱雀（他は留任、院関係 小竹石雲・
北野攝山・鈴木響泉・鈴木まつ子・
千葉蒼玄・堀吉光・慶徳紀子・柳澤
朱雀（他は留任、院関係 小竹石雲・
下谷洋子）

* 第24回毎日書道顕彰3氏に

書道芸術部門に下谷洋子・本院常務理事が決定。昨年10月、東京銀座画廊にて開催した「下谷洋子かな書展」沈潛と流れ」は伝統に基づいた中に現代感覚溢れた表現が高く評価された。

ほかに座本大津氏が同じく芸術部門が高く評価され、書道啓蒙部門で拓本金石研究家の伊藤滋氏が受賞した。伊

藤氏は本院発行の月刊競書誌「書道芸術」卷頭資料解説をご担当いただいている。

* 第26回「中国へ書の研修団」団長・石雲本院常務理事が就任することに。* その他 新春展は来年60歳以上から100名選抜。和光会場は従来通り。

* 新春チャリティー展の改革。来年も松坂屋カトレアサロンで開催予定。
* 平成23年干支切手は11月中旬発売予定。本院大樂華雪常務理事ほか9名が揮毫担当する。

* 東日本大震災への義援金拠出の件

各団体の義援金に合わせ毎日書道会として500万円を拠出する。

* 第7次毎日書道展改革委員会設置

第65回展以降の機構改革を検討
委員長 石飛博光
副委員長 仲川恭司・辻元大雲
委員 各部より13名。

下谷洋子かな書展会場風景



* 第63回展進捗状況、特別展「宇野雪村の美」展の準備状況。

国立新美術館1棟で展示される。

A書作品58点、B折帖9点、千字文・

年賀状・書簡、D編著作20種、E作品集、F著作題字7種、Gその他、自用印など。ほかに五島美術館蔵雪村旧藏

文物42種、北京故宮博物院雪村旧藏拓本14種などが展示される。

* 第64回展から東京都美術館（全棟使

用）が借館開始となり、展示計画が辻元大雲担当理事により提案された。

国立新美術館では会員賞・毎日賞・

財団役員・全国審査会員まで通期陳列、

全国会員は前後期陳列、東京展会員は

広島「熊野筆まつり」大作揮毫

日本全国一の書道筆産地である広島県熊野町で毎年行われている「筆まつり」で5m×6mの大作揮毫を辻元大

雲依頼されました。頑張ります。

* 日時 9月23日（金）午後2時

* 応援出来ましたらよろしく。

現代詩文書（四）

佐藤無極



第52回書道芸術院展

佐藤無極書



第57回書道芸術院展

佐藤無極書

種々書いてはみたが、やはりこれは大字で透明性のある渴筆、筆の鋒の長さを最大限に活用することで生れる量感をとの思いから書いてみた作です。掲載下段は第57回書道芸術院展出品で、石川啄木詩「杜に立ちて」の一節です。私はこの年は、入退院を繰り返しており、作品を書なれどおりましたが、一切間近に間合よく一時退院した折に元気にしていましたというメッセージをこめて書いたもので、自分への記念すべき作品だと思っていますが、虚勢が勝った作品となつたかもしれません。

作品を書くということは、素材となる詩、歌、句、言葉で今の自分に共鳴し、心に響く詩や歌にいかに出会えるかにかかっているように思います。私自身これまでを振り返ってみると、一時期同じ詩人の詩歌を続けて書いていました。吉田一穂であったり、宮澤賢治、あるいは宮澤賢治であったりしています。これはその時々の心境に深く関わっているものと思います。

掲載上段は第52回書道芸術院展出品で、宮澤賢治詩「五輪峠」の一節です。雪深い東北の風景が思い浮かぶ詩文で、これをいかに表現すべきかを悩んだ末に、細字で細線、中字であるいは大字でと

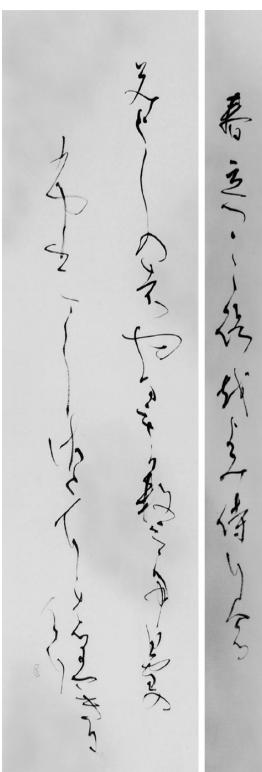
いるように思います。吉田一穂であったりしていません。これはその時々の心境に深く関わっているものと思います。

かな（四）

大辻多希子

21世紀の書

—私の主張—



創立50周年記念かな書道作家協会展

書道とは切り離せない生活を永年続けている。最近は体力の衰えを感じるようになってきた。稽古に通つてくる人や廻りの人には迷惑をかけないように健康維持に気をつけるようになります。特に2尺×8尺などの大作の後は腰痛に苦しめられる。

身体のケアーを怠ってきたが永く書を続けるため真剣に考えて、一週間に一度ヨガをすることにした。

腹式呼吸をして、静かに身体をほぐすこと二時間、身心ともに軽くなり、疲労回復に良いと実感している。

「静と動」について、書においては静動、即ち静中の動、動中の静、が大切であること。ス

書道とは切り離せない生活を

永年続けている。最近は体力の衰えを感じるようになってきた。稽古に通つてくる人や廻りの人には迷惑をかけないように健康維持に気をつけるようになります。特に2尺×8尺などの大作の後は腰痛に苦しめられる。身体のケアーを怠ってきたが永く書を続けるため真剣に考えて、一週間に一度ヨガをすることにした。

腹式呼吸をして、静かに身体をほぐすこと二時間、身心ともに軽くなり、疲労回復に良いと実感している。

「静と動」について、書においては静動、即ち静中の動、動中の静、が大切であること。ス

大辻多希子書

「忘想と祈りの中で」

佐 藤 星 沙

(漢字部・審査会員)



佐藤星沙書

目を閉じると、金色にふちどられた雪原。日の出前の薄紫の空気が、朝の揺らいだ光に変化し、きんと張りつめた、かた雪の中をはしゃぎながら、登校する。東北出身の私は、幼い時びしょ濡れになって雪と戯れた。かまくら遊び、大っこ祭り等々、雪にまつわる思い出は、尽きない。

今年の毎日展は、「雪」をテーマとする。八月の鳥海山に残る雪形、心字雪をどう表現しようか。試行錯誤する日々。そこへ3月11日の大震災。重くるしい気持ちを払うことも出来ず、なかなか制作に取り付けない。まずは

自分の気持ちから立ち上がる。祈りの中で、言葉を綴って行こう。たおやかにすそ野をひろげる別名、出羽富士とも呼ばれる鳥海山も、200年前に、大地震があった。そうな…。耐えることと、やさしさの深い東北の魂。めぐつてくる季節に祈り、春の芽吹きに生きる勇気をもらう。雪解けの命の水が、花水となって稻穂を育む。清く澄んだ牛渡川に浮ぶ「バイカモ」も恵みの雪が生み出す輝きなのだ。

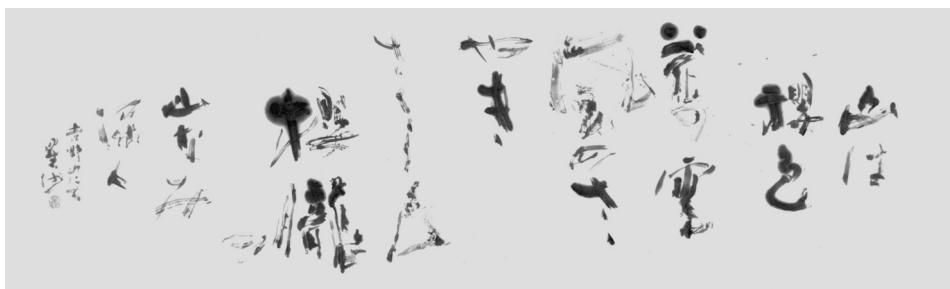
後漢の張遷碑の文中には、「雪白の性」などと清廉な張遷を表現し、清流派の宣伝タワーにした。そこにも「雪」の

出番があった。雪に関して想いを巡らすと際限がない。こんな妄想ぐせの中で制作していくのだが…。昨年のテーマは、なにをおもいついたのか「波」だった。
「『海が月を寄せ波を呼ぶ。打ち勝つすべはない。織りなす一枚の布のように姿を変えながら旅立つ』」
自然の脅威の底知れなさの中に無力でちっぽけな自分をおき、視点を変えながら明暗の中で人生の旅立ちを新たにする。なげなく綴ったつやきだつたが、今おもうとこんな意味合いも含めていたのだろうか。

しかし、日常をすっぽり奪ってしまう今回の猛獣のような「黒波」は、この世のものは、おもえなかつた。銚子断崖の海岸で足をさらわれそうになつた大波への恐怖。マンダラ図にある「マカラ」の尻尾の波の不思議さ。北斎のモダンな波。せいぜいこんな波におかされていた昨年であつたのだが…。書の技術に乏しい私は、いつも直すたびに愚作を呼んでしまう。

深遠なこの芸術?文化にもがき苦しみながらも、心を振り動かされながら書く自作の制作は、いつも妄想に走り言葉だけが歩み出してしまつ。恩師の種谷扇舟先生の筆運びのみごとさ、晩年に至るまで、傑作を創り続けられた飽くなき追求心を胸に、いつか観てくれる人に心に響く何かを伝えすることが出来たらと、これからは、真摯な気持ちで制作に向いたい。

そして生き延びた私達に何が出来るか、行動に移しながら、一日も早い、被災復興を祈りたい。



第59回毎日書道展 每日賞受賞作 佐藤星沙書

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみも可)

〈解説〉 この碑は、唐の太宗の聖教序を、
僧懷仁が宮中にあった王羲之の真蹟から集
字して刻したものである。集字に当たっては、
字形の拡大・縮小・偏と旁を組み合わせて

作字するなど、完成までに24年を費やした。
碑面は30行、行の字数83~88字、総字数
1792字で、現在は陝西省博物館の西安
碑林にある。

遷儀越世。金容掩色。不鏡
三千之光。麗象開圖。空
端四八之相。於是微言廣被。
拯含類於三途。遺訓遐宣。



かな研究部 針 切（伝藤原行成筆）①

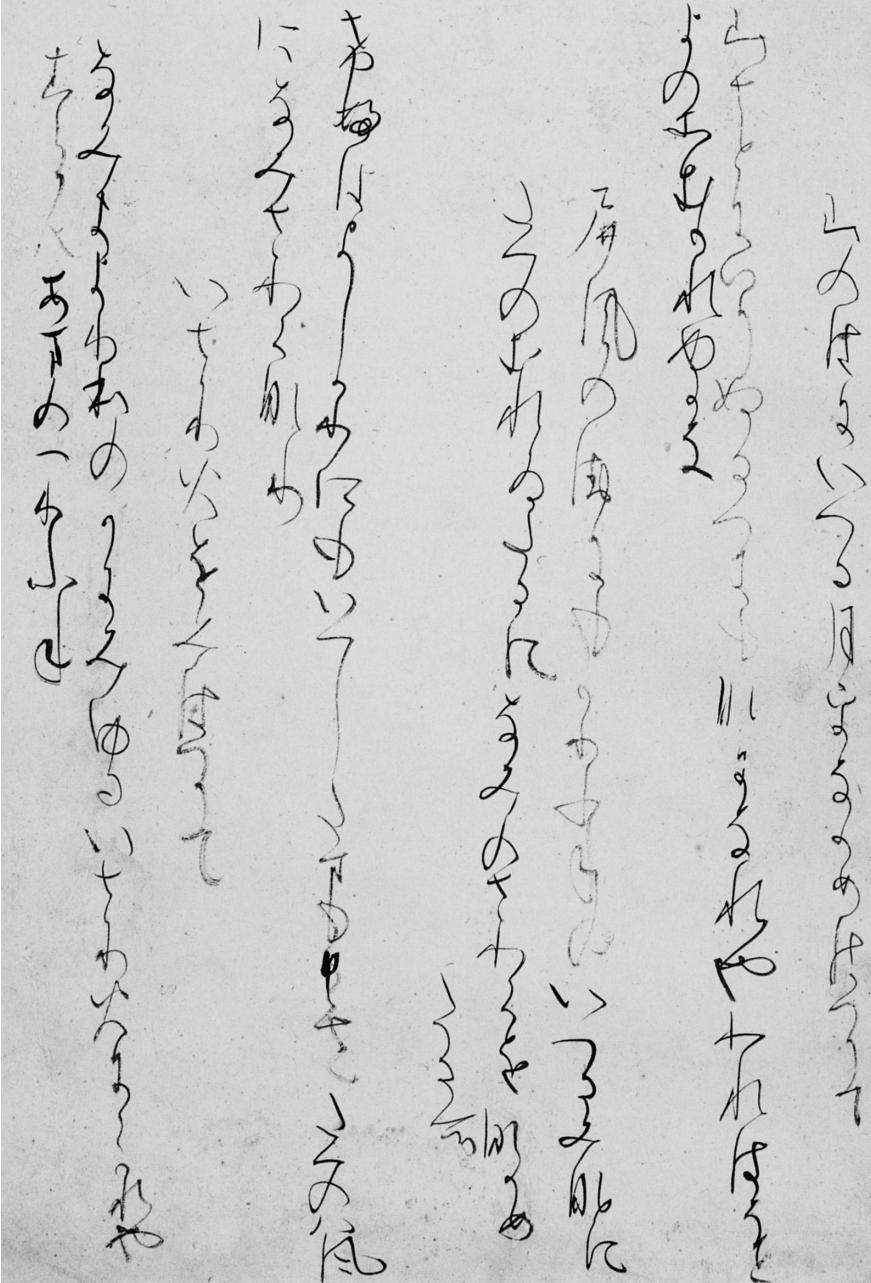
特別研究部臨書課題

= (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可

〈解説〉「古筆切名物」(古筆了仲著)をして、文字細き故此名アリ——といわれた針切は、一種の私家集で、(源重之の子の僧の集と相模集からなる。もとは経葉装とよばれる冊子本で、楮質の素紙に書かれている。

重之の子の僧の集は、詞書きがあり、約紙23センチ、横16センチの料紙に十行ほどで、かなり小さな文字が小気味よく動く。歌は全て二行書きだが、詞書きの位置や行数を工夫して散らし書き的な嗜好も見られる。今回は「重之の子の僧の集」。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨
(押印のみも可)



用紙
・半紙普通判(料紙可)

〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付は不可。

よみ

山のはにいづる月を、ながめ

はべりて

山さとにいりぬるつきもなになれ

やわれはうき

よのそむかれぬかな

屏風のゑに、もかかりぶねのい

づるみなどに、

たづのむれるたるに、なみの

さわぐをながめ

たる所

けふはよしかりにもいでじたまも

ぐさたづのは風

になみさわぐなり

いさり火をみはべりて

なみよりほのかにみゆるいさり

火にこがれや

すらんあまのつりぶね

習い方解説 (四)

大野祥雲

易子而教之
（孟子）
自分の子は教えにくいので他人
の子と取り替えて教える

「易」日を細めに書いたが、内に
白を残す。下部は思い切り大きく
広い空間をとった。

「子」画数の少ない文字だが、強
い線で細めに書いた。呼吸が整わ
ないと調和が難しい。

「而」筆の開閉と表裏を生かし、
伸びやかに運筆。各所に白をとっ
て、明るい文字に。

「教」偏と旁の力関係はほぼ互角。
息永く深みがあつて清らかな線に
したい。

「之」深い点から左へ、右へ、左
へと移り、最後の払いはやや俯し
た線で押し出した。画数は少ない
が存在感があるようだ。

易子而教之 よみ（子を易えて之を教う）

書体＝自由



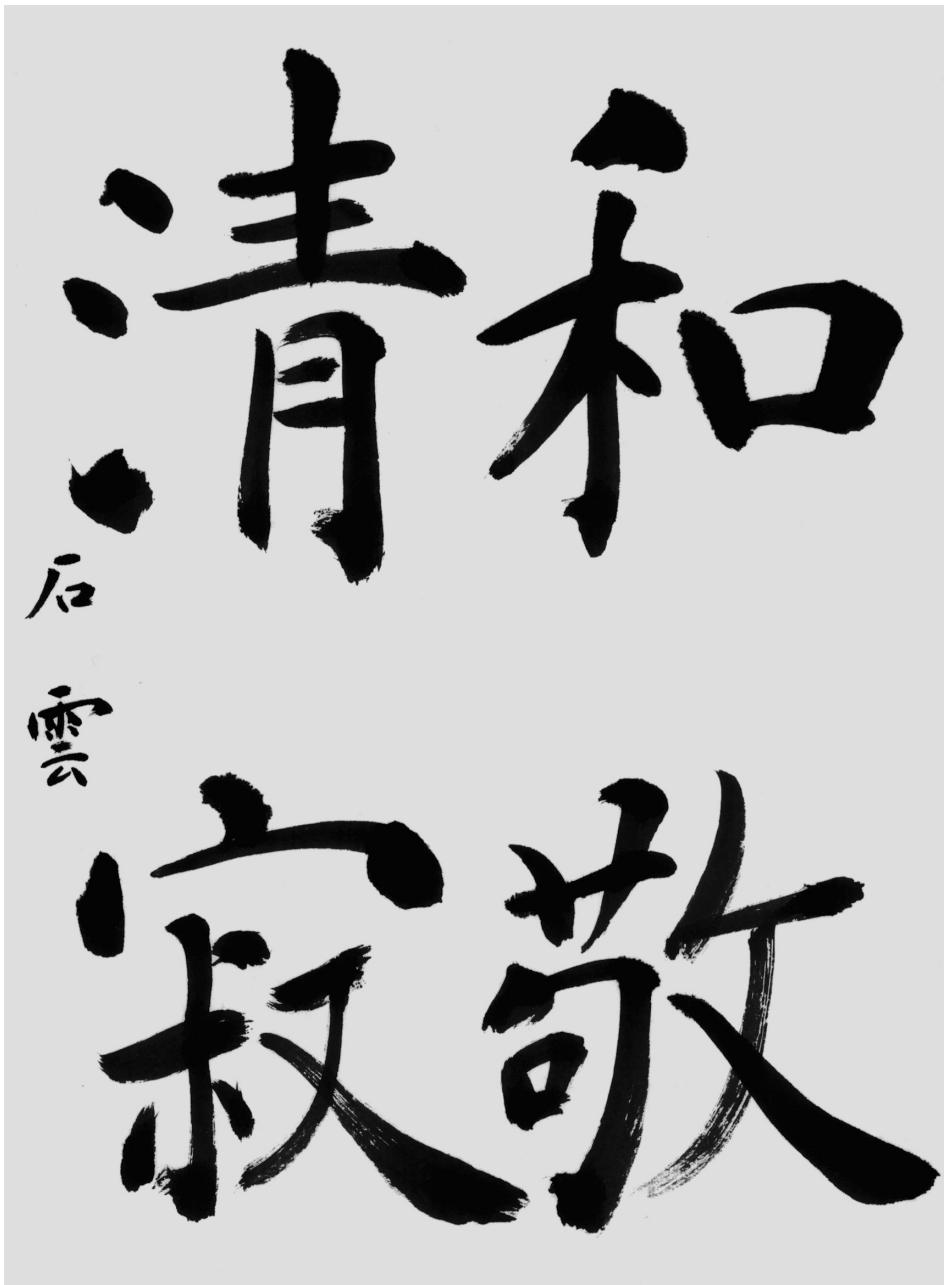
漢字規定秀級以下【八月十五日締めきり】用紙半紙普通判

小竹石雲選書

習い方解説 (四)

和敬清寂 (村田珠光)

小竹石雲



書体＝楷書

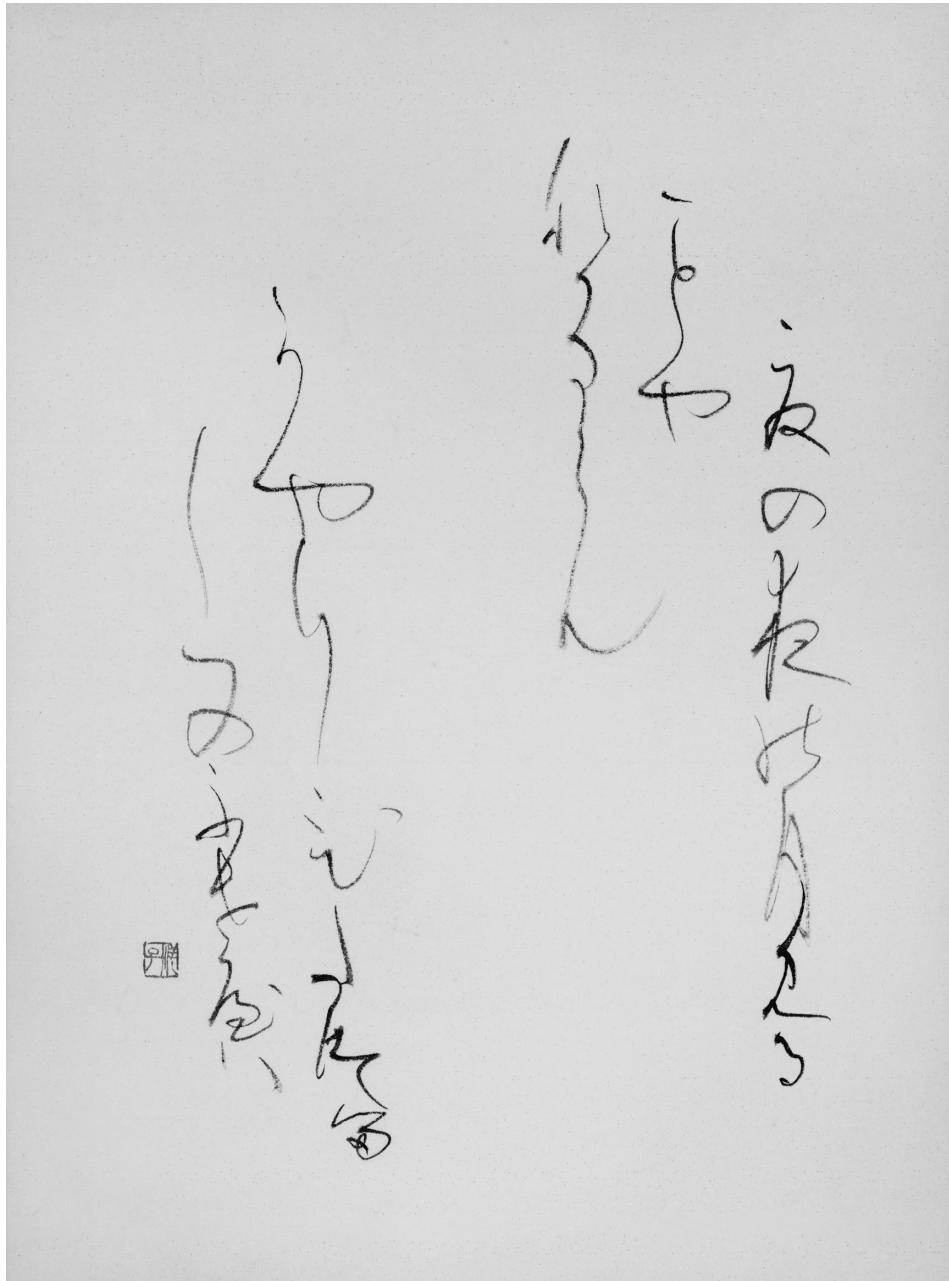
初唐の三大家として書名の高い
虞世南の書風で書いてみました。
容貌は柔軟で穏やかな感じでした
が、性格は厳しい人だったといわ
れています。それがそのまま書に
表われたのでしょうか、温雅で氣
品があります。それでいて力強い
ものを内に秘めています。
穏やかな感じは、起筆を静かにつ
つましくし、送筆部分はゆったり
した筆運びに原因があるようです。
また縦長で横画や右払いをのびの
びと書いているところに気品を感
じるのででしょう。
偏と旁のバランスを考え、窮屈
にならないよう気をつけて明るい
作品になればと思います。

和敬清寂 よみ(和敬清寂)

下谷洋子

夏の夜の月みるとやなかるら
むかやり火たつる賤の伏屋は

(山家集)

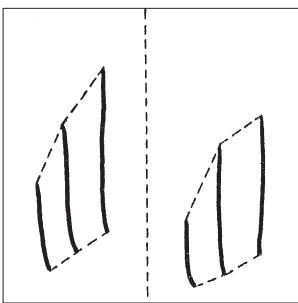


散らし書きの構成について触れます。自分で創作しようという時、何を廻り所とするか、古筆では三色紙がありますので、ヒントになるとよいでしょう。上掲は寸松庵色紙の左右分裂式と呼ばれる形が基になっています。大きく二つに分かれつつ、左右の集團は共鳴し合う、共鳴とは二つの塊が同じではなく響き合うこと、行数・字の大小などに呼びかけが必要です。後方の集團はやや右に傾斜させ、扇の要のように行が一つに集まれば各行は散漫になります。余白の白が美しく見えるには、確かな行の作り方が必要なのです。

よみ方 夏の夜の(能)月見ることやな(那)か(可)るらむ(无)
か(可)やりび(飛)た(多)つ(徒)る(留)しげのふせ(世)や(屋)は(八)

創作

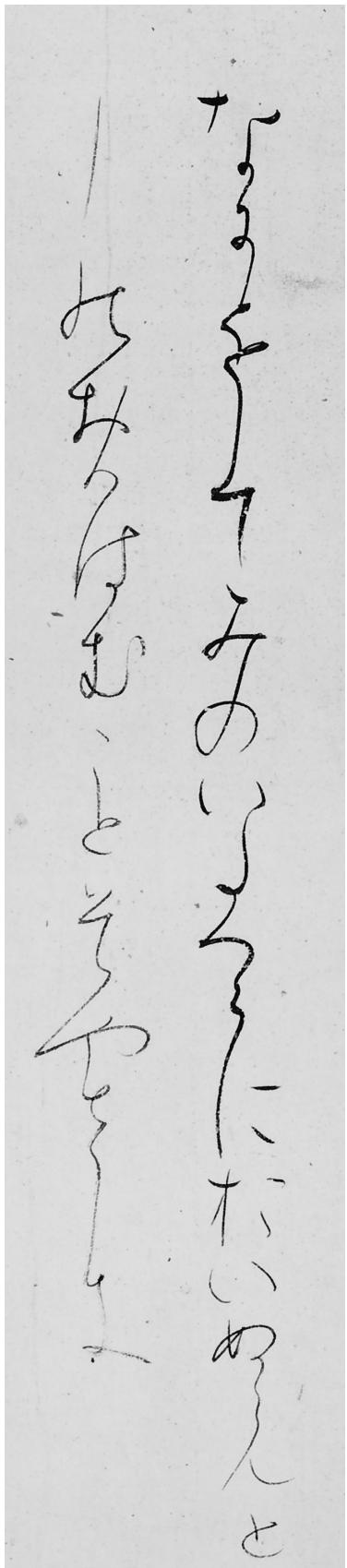
左右分裂式



かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 なに(尔)をしてみのいた(多)づらにお(於)いぬらんと
しの(能)おも(无)はむことぞやさしき(文)

習い方解説 (一)

平川峰子

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

平川峰子選書

ひともとと思ひし花はなを大沢おおさわの池いけ
の底そこにも誰か植ゑえむ

(紀友則・古今和歌集)

一本だけと思っていた菊の花を
大沢の池の底にも誰が植えたのだ
ろう。池に映った菊の花の影を詠
んだものである。制作ポイントは
潤渴を美しく。

大沢の池は現在の京都市右京区
嵯峨の大沢池。「思ひし花を」の

「花」が「菊」とある文献もあり。

創作

よみ方 ひ(非)ともと(音)、思ひし(志)花を大沢の(農)
池の底に(耳)も(毛)誰か植ゑ(介)む

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (四)

名 越 蒼 竹

雨侵斜日明辺過 雲望前山缺處歸
（雨は斜日の明辺を侵して過ぎ、雲は前山の缺處を望んで帰る）

蒼竹書

書体＝自由

今回は行書体で書きました。意連に気をつけ、自然な流れを感じるように表現したいものです。行書・草書は文字の大小・字画の細太長短など、デフォルメが自由に行えますが、やりすぎて全体のバランスをこわす危険性もあります。まずはオーバードックスな書風で行きの流れと章法のまとまりを意識してください。

漢字条幅規定 秀級以下【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

種谷萬城選書

習い方解説 (四)

種 谷 萬 城

過則勿憚改

萬城書



論語

書体＝自由

論語・学而に「学問すれば頑固でなくなる。過ちがあれば、ぐずぐずせずに改めよ。」とあります。今月は、顏真卿の楷書を参考にしました。顔法と呼ばれ、筆の弾力を駆使した独特的の書法の楷書は、重厚感に溢れ魅力的です。搖ぎ無い信念の強さが窺えます。是非原本を学んでください。

過則勿憚改
(過ちては則ち改むるに憚ること勿れ)

習い方解説 (四)

上柳佳規

吉田一穂の「天隕」は四行のみの詩です。

天隕は天隕石です。
副題に「彼等、歌いて星の下を徨（ゆけり」とあります。

副題は青春時代の経験のこと。

深夜の空にかかる銅板のような朱い月を見て金貨を連想し、顧みて懐中の無なることを慨嘆した詩です。
それとは別にこの朱い月は奇妙な魅力をもっている。

月は太陽の陽に対して陰。深夜は真昼の動に対して静。「静」の雰囲気が出せばよいですね。

月しづむ境に眼らん。
深夜の朱金、商うあり。
虚しきと抗う、わが渴き。
太古を降る砂鉄の岸。

吉田一穂「天隕」
佳規かく

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

詩中の読み
境…はて
降…くだ
岸…ほとり

予告訂正

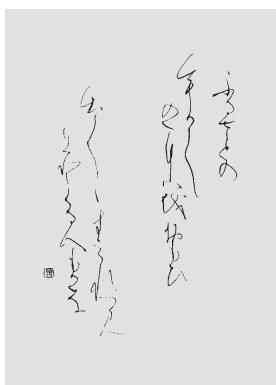
○吉田一穂 → ㊱一穂

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

今月の

ホープ作品 各部総評

No. 601



かな部 師範 山本田美子
優しい墨色、自然に流れる線に
気負はなく美しい。何時か私もか
くありたいと、憧れと敬意で拝見。
◎かな部総評 珍しく創作した人
が少なく残念。一步踏み出して下
さい。又、かな半紙作品に相応の
印の用意を希望します。(明子評)

かな条幅部 四段 野村 和子

やゝ小ぶりですが、無理のない
自然さが魅力。墨量が少なくなつ
た時の筆の当たりが課題です。
◎かな条幅部総評 参考手本の文
字(漢字の草書や変体がな)をよ
く確認して誤字にならないように
したい。まづ正確に。(洋子評)



美恵子

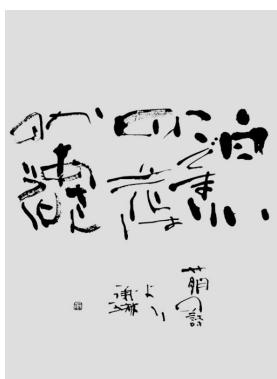
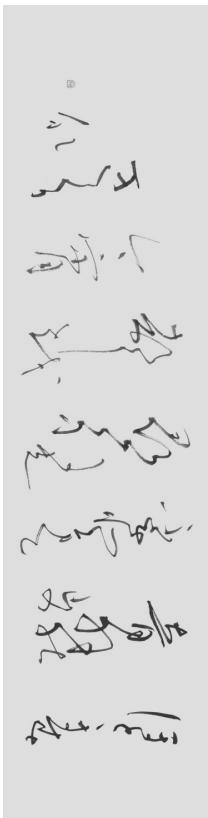
◎漢字条幅部総評 参考手本によ
り篆書を学ぶ機会を得たようだ。
下級も着実な学習ぶりが見られた。
(翠風評)



漢字条幅部 師範 入山美恵子

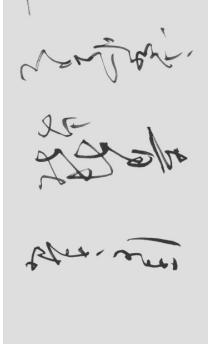
不安に満ちた現代の世情の中悠
然たる鄭碑風の書に心和む。静か
な境地が筆端にまで及んでいる。

前衛書部 特選 亀井 健
大胆な構成と迫力のある線が見
事に調和した作。独自性のある墨
色が作品を一層引き立てている。
◎前衛書部総評 何を表現したい
のか目標をもって制作してみては
いかがでしょうか。(蓮紅評)



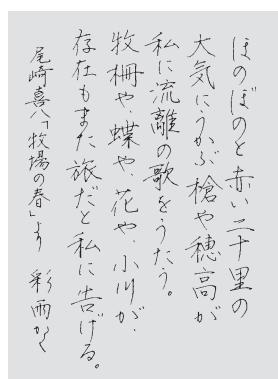
◎漢字条幅部 師範 入山美恵子

現代詩文書部 特選 鈴木 承琳
構成の妙、遠近法を考えての作
でどうか、左右に余白があると
さらに奥行が感じられるのでは。
◎現代詩文書部総評 上位は力作
が多くみられた。一作、一作を楽
しんで書いてください。(無極評)



翠

◎漢字部 師範 金井みどり
漢代の木簡帛書風を取り入れ、
豊潤な筆致で大胆かつ広がりある
表現。落款も調和して安定。
◎漢字部総評 やや画数の少ない
語句での表現が上級下級共にやや
難しかったか。無駄な余白と映ら
ぬよう構え大きくしたい。(大雲謹)



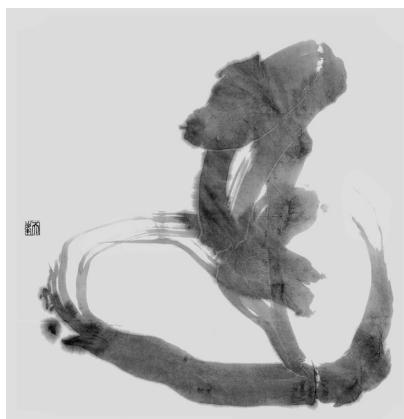
ペン字部 師範 吉瀬 彩雨
入筆、終筆がしっかりと伸々
とした形になっている。流れも自
然で最後まで一貫した秀作。
◎ペン字部総評 ペン字は読み易
さが求められる。あまりにも流れ
過ぎた作があるが、やはり楷書、
行書をしっかりと。(蒼玄評)

漢字
関口天峰

「逢」



60×178cm



関口天峰書
69×67cm

現代詩文書
(もくせい)
西川藤象

「保脇ケイの歌」

◆柔らかな淡墨による潤滑の変化が明るく滋味ある表現となった。詩情とのマッチを感じさせ心安らぐ作。

(大雲評)

◆筆勢があり、軽快なリズムで書かれた線が、淡墨の効果で温厚さを加え、のどかな詩情を感じさせる。

(萬城評)

◆筆の動きが紙面の中で生きているように變化し、滲みとかすれの変化が一体化し躍動感あふれる作。

(倫子評)

◆一字一字は求心的で緻密な動きですが、墨の柔らかさと構成の伸びやかさで規模の大きさを見せた。

(洋子評)



60×178cm

前衛書
(四谷)
角田悠香

「墨のドラマ」

◆白の利いた滔々とした流れが魅力です。筆の働きが豊かで変化のある線に對して墨色が濁って残念！ (洋子評)

(大雲評)

◆瞬発する動きが紙面に広がり、躍動感ある作。にじみの効果がもつと冴えれば更に立体制になつたか。(大雲評)

(萬城評)

◆筆が自在に躍動し、多彩な表情を見せる線が混在していく面白い。右部分の線はやや甘いか。

(萬城評)

◆ゆったりとした筆の流れに適当にかすれが入つて動きある表現となつた。墨色にもう少し輝きが欲しい。

(倫子評)

◆粗密感の妙味があり、左上部の余白が効果的。淡墨の効果により線の交差部が立体化し深みを生ず。 (萬城評)

(倫子評)

◆伸縮豊かなリズムで、動きの差異がポイントになりまし。落款印がこの場合大きいのである。 (洋子評)

(洋子評)

角田悠香書

創作の部(50点)	
漢字	— 7点
かな	— 4点
現代	— 19点
前衛	— 19点
篆刻	— 1点
臨書の部(27点)	
漢字	— 21点
かな	— 6点
現代	— 19点
前衛	— 19点
篆刻	— 1点
特選候補者	
漢字	—
篆刻	—
創作の部	
漢字	—
篆刻	—
前衛	
漢字	—
篆刻	—
臨書の部	
漢字	—
篆刻	—
総出品点数	
77点	

漢字研究部
(九成宮醴泉銘)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



高橋 蒼香

漢字研究部 特選 高橋 蒼香
強く締まった線で用筆も見事です。又、結体も安定し、落着きある秀作だと思います。

特に短横画の起筆を、力まず表現している点が立派だと感じました。ただ、落款が小さくまとまりすぎたのでは、と思います。

◎漢字研究部總評

さすがに多くの人に馴じみのある九成宮體泉銘であり、殆どの作品が立派な臨書でし

た。しかし、この作品の特徴である背勢ではなく、向勢に書かれた作品も目につき残念に思います。その他、「氣」の第四画の転折や、「風」の第二画の転折を完全に筆を離してしまっている作品も気になりました。

まっている作品も気になりました。

古典の臨書のみならず、基本を研究し、理解した上で書くことは、大切なことだと思います。

蒸氣之

養神之

風氣微

信安體之佳

微風徐動有淒

之安體佳

由美子城穗美

誠養神之

金無欝蒸之氣
微風徐動有淒
之佳所誠養神

之氣微風

蒸氣之

之涼清

徐微風動

祥紅有理嵩裕
秋雅津扇柏子

金無欝蒸之氣
微風徐動有淒
之佳所誠養神

徐微風動

之勝地

微風徐動有淒
之佳所誠養神

養神之

涼信安體之佳所

彩永麗岳千彩
雨簾流峰子華

所誠養神

徐微風動

誠養神之勝地

微風徐動有淒
之佳所誠養神

佳所誠養神之

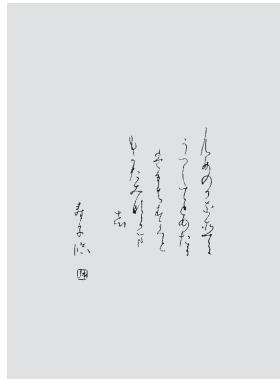
徐動有淒

白白澤梢代美

か な 研 究 部
(寸松庵色紙)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品



伊 藤 寿 子

◎かな研究部総評

誤字は殆んど無く、書かれていましたが、線質の
弱い作品が多く見られたのが残念でした。よくその
古筆の特色を研究して精進して下さい。

寸松庵色紙の特色である、粘りと張りのある強い線、更に墨色、字形、筆意、線情、流れ、共にリズムに乗り、明るい見事な秀作です。

嘉志昌 漢寬紅 桂愛弘 敏佑優
希江子子 子子霞 香石子子子

特選
板梅川武小田新西森春石小小遠藤木中橋佐松稚伊吉川伊
倉山元山林野谷澤田山橋川林山村原村本藤丸井藤田崎廉
志
作
50音圖
藤久茱芳晃可嵐瑠勝知彩嘉希昌輝寛紅桂愛敏佑優寿
竹子仙枝代三鼎美子美子香江子子子雷香石弘子子子

昌竹や竜千如澄道清秀 正五卯竜紅紅願千N 竜三高調英幕竹大千如秀秀
昌竹や竜千如澄道清秀 正五卯竜紅紅願千N 竜三高調英幕竹大千如秀秀
昌竹や竜千如澄道清秀 正五卯竜紅紅願千N 竜三高調英幕竹大千如秀秀

吉横山森村武宮松真藤林永都津高須鈴志波坂後後後小木吉北河河神金門大
田山口田田藤内井下本丸田橋田木水谷本藤藤峰村瀬村岡合谷子脇森
作會木

八竜麗も街泉澤く、塙白春五千大正白高山秀遊一、秀童佑竜うる八昆千た正八街や宮京東筑若昌四玄千彩広Nこ華N豊椿筑石正、大高崎
和鷺光葉葉阪華子陵王水雲葦「水泉希泉る雲陽葉か華街また城橋小桜葉苑谷象字

足浅秋青
川山木
み之啟子
実枝扇子
運(60首)
若山山真松松牧前前花西中富寺土田鈴進七穴紫猿佐佐齋後近小小工木木木木北岸川川加加加小岡大犬伊池飯青
菜崎口庭重佐岡野花島里澤村澤谷中木藤條倉雲渡藤々藤藤藤藤藤藤口藤元原下川田本田藤藤藤野田西銅藤田木
由タ理理
矩香美ヶ翠白律優麗登代智彩一恵悟一梢利寿裕和煌眞麻町敬松さ智山桃尚都東南温翠雅真玉十一道英萩惠
矩織ミ景鈴子麗子麗子峰琴翠子江翠子美子月右美華美え子春ゑ子房苑子祥子汀子陽芳澄華夜美石子溪萩子

英澄春若八皓昌石硯昌高洞澄艸大館調こ東。大帝生高大蓮東鬼艸皓映阪紅玄向原田青營樹原春清月土遊雲秀龍水研硯峰春明泉風雲東急總經峰高嶺生金金陵遊雲高嶺生金金陵遊雲

新志島篠重佐佐坂酒洒齋後小小小小高黒木君北岸菊音神龜金片鹿小奥沖江内薄白上上岩岸今伊礎石五飯新新阿安
木行村田信藤々巻井藤藤山林島暮武柳村島村本池野田井谷岡野島野山田田田井原田瀬崎村藤貝崎十萬井部部
内惠佳木ふ佐
多満抱文美裕初代雅麗蕙花翠絹喜笙雅み祥玄竹等春欣秋玉難典紫皓萩美裕理翠茂皓春綾岳啓祥洋貴紫清正佳柴知廣菜明
美子映香子芳苑子雪香子秋洋子子峰城葉遊翠子茜蓮代子風洋美代子絵峰子夫泉綠乃峰翠園子泉邦羅子采苑枝子華隆

五明青樹竹華澄如紅調硯梵も幕蓮大京高前大椿容大幕洞東秀詢遊澄泉秀倉大春遊森大玄立湘大春玉や有青五高澄彩秀葉漢峰原扇屬春月苑布水く張紅雲橋陵橋阪翠州阪張書向歎扇雲春会歎吉阪汀雲地雲穹精南阪汀松ま秋峰葉陵春水遷外

吉遊山山柳八茂武宮三松松木堀堀別藤平兵比林濱島長野西浪永長中富渡徳東積土千田玉田田田田高高開砂
吉佐村崎堀木木藤澤宅本島田切川井府井山藤田山山谷村江川田島江田子水平田屋田丸岡原中玉澤橋口川
田千か川みる美正章杏秋洋
彩淑鶴光一炎桜政順真蕙草白藤翠美幸魯法信智つ玉琴玉竹芝和陽美秋時一よ萩紀溪綿雅光白貞萩恵耶哲悦千正章杏秋洋
祥子治栄秀江翠子蘭睦秋楊薛舟雪雲春子子子泉清華雪香子詢香花子水子彩子仙子雲輝香子翠子衣子代正子治華麗子